

平成27年度 秋田県農地中間管理事業現地説明会「現地視察資料」

「中仙中央地区園芸メカ団地」



園芸メガ団地整備事業の概要（大仙市中仙中央団地）

園芸の飛躍的な生産拡大を一気に実現するため、JAを核とし、販売額1億円の園芸団地を目指すため、園芸メガ団地を設立する。

●実施計画（H26～H27年度）

実施主体 JA 秋田おばこが建設しリース
方式で貸与

対象地域 大仙市中仙中央基盤整備地区内

生産法人 （農）下黒土アグリ、（農）上黒土

事業費（税抜き 県 1/2、市・JA 各 1/4）

H26 375 百万円 H27 51.4 百万円

予定工期 H26.5～H27.3、H27.4～27.7

事業規模 トマトハウス 104 棟（3.2ha） 延べ面積 6ha

全農ういず ONE システム（簡易養液栽培システム）

市場向け青果販売だけでなく業務向けトマトの生産も行う

生産目標 販売量 436 t、販売額 116,987 千円（計画最終年見込み）



●現在までの進捗状況

H26.5 現地説明会、入札、発注 H26.5 着工 H26.6 試作棟完成（6 棟）

H26.7～11 試作 H27.3 施設完成

H27.4～7 付帯設備、施設工事、H27.5.1～栽培開始（完成次第順次定植）

●トマト栽培予定

H26.7～11 6 棟分を先行完成させ試作実施

H27.5～11 全棟（設備完成に合わせて7回に分け定植）で本格栽培

H28 年からは5月定植、7月中旬～11月収穫の作型で栽培予定

期待される効果

◎園芸作物生産額の飛躍的な向上

◎産地形成によるブランド化

◎農業法人による大規模な複合経営モデルとしての波及効果

◎簡易養液システム導入による遊休農地活用への波及効果

◎同システムによる田植え後の稲作育苗ハウスを活用した栽培モデル

◎収穫期間における農業雇用の拡大

◎農業者の通年雇用先の確保

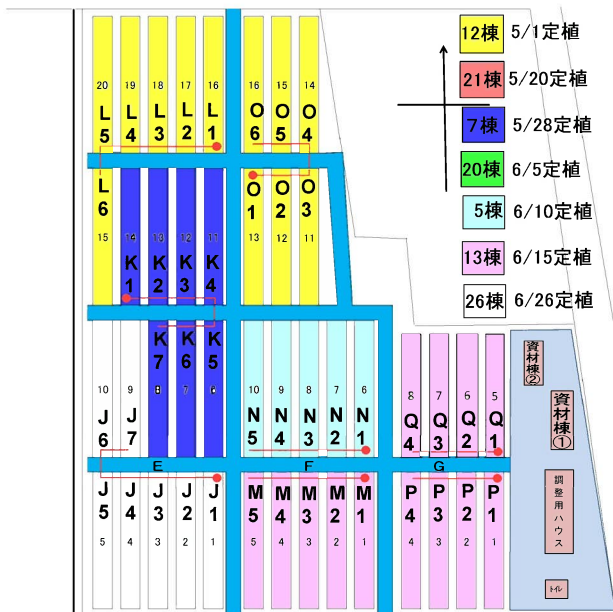
◎新規就農者及び栽培技術向上の研修地

◎生産物による6次産業化への期待

【養液栽培システム(全農式ういずOneシステム)】

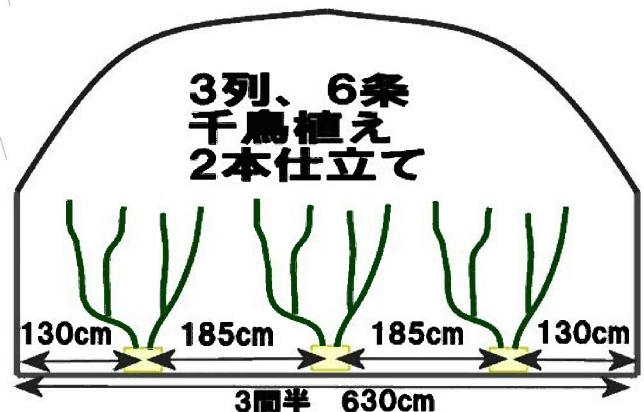
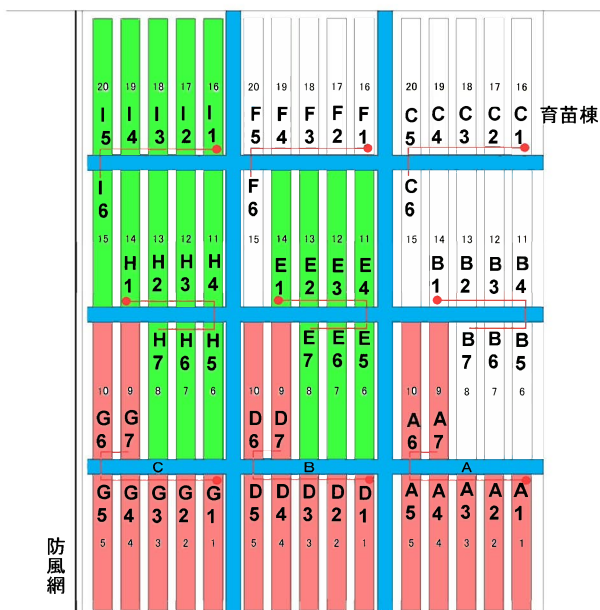


【H27メガ団地ハウス配置図】



【H26年度試作結果(6棟)】

- 7月1日定植
- 栽培品種
 みそら64 (2棟)、
 りんか409 (3棟)、
 中玉トマト3品種 (1棟)
- 収穫 8/19 ~ 11/20
 出荷量 5,888 kg
- 1棟あたり株数
 1列 57Box × 3列 (171Box)
 × 2株 = 342株 (2本仕立て)



- H27年度作付け
 品種りんか409 全棟での栽培
 5/1 から 6月下旬まで、養液システム
 の配管工事終了後、順次定植
 7月中旬から収穫見込み

おらほの愉芽(ゆめ)語り農業 ～将来の集落の姿を、みんなで夢持って考え、未来の子供たちへつたえよう！～

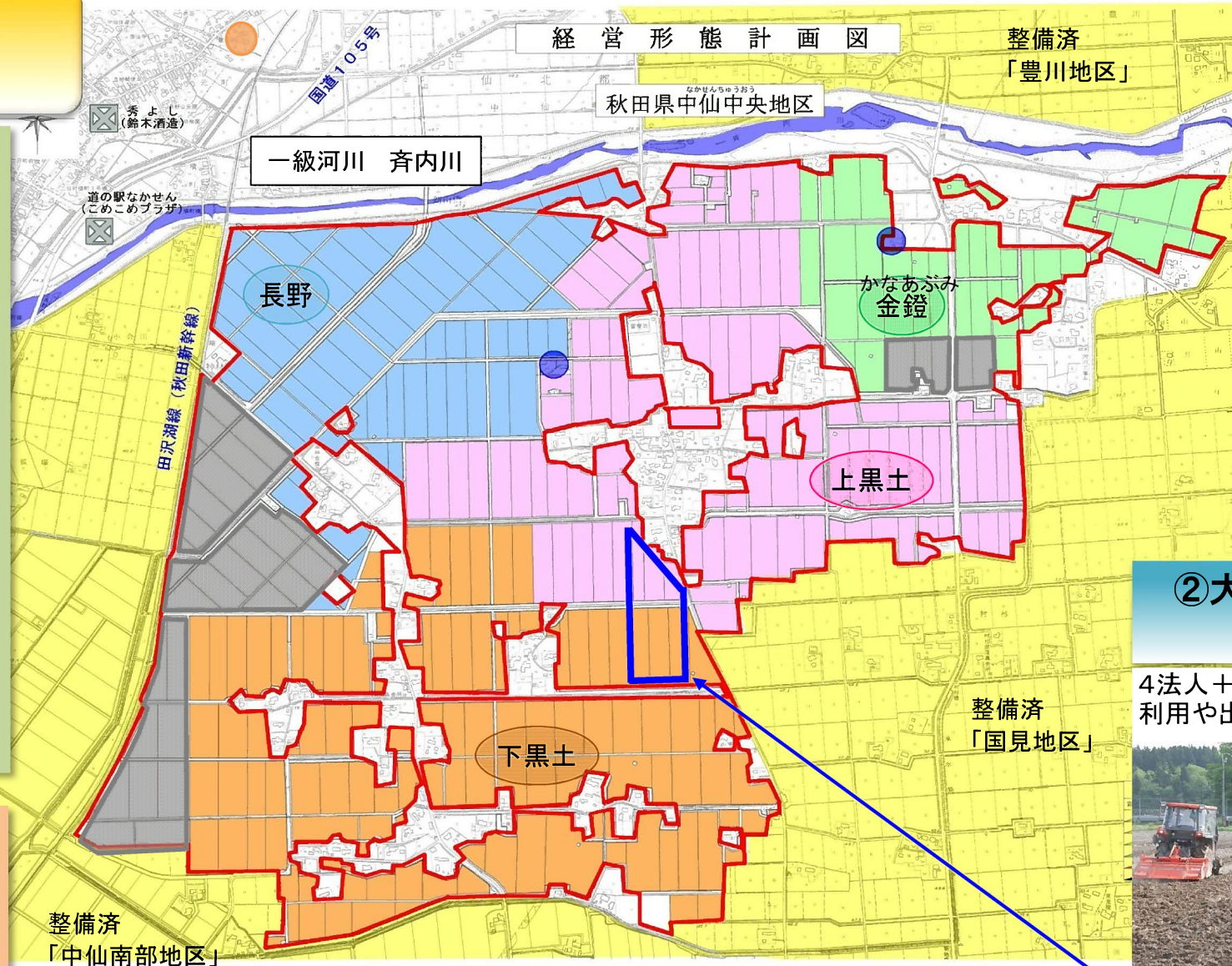
農地集積加速化基盤整備事業 中仙中央地区（大仙市）

【事業概要】

- 関係市町村 大仙市（旧中仙町）
- 受益面積 A=256.7ha
- 関係農家 265戸
- 総事業費 3,691百万円
- 営農構想
 - 3法人 平成26年1月設立
 - ・農事組合法人 下黒土アグリ 74.1ha 34名
 - ・農事組合法人 上黒土 78.8ha 50名
 - ・農事組合法人 長野ライスファーム 26.3ha 17名
 - 1法人 平成28年3月設立予定
 - ・農事組合法人 金 鎧 36.5ha 26名
- 関係土地改良区 清水北部土地改良区

【地域の特長】

- ①新たな農業法人が228ヘクタールを経営
 - ・地区内4集落を基本とする4法人を新たに設立。
 - ・地区面積の88.9%にあたる228ヘクタールを経営して地域農業の発展を目指す。
- ②大規模大豆団地のブロックローテーション
 - ・法人経営のスケールメリットを活かし、大豆栽培のブロックローテーションに取り組む。
 - ・地区外の大豆生産法人とも協力して大産地を形成する。
- ③おらほの愉芽の野菜づくり
 - ・園芸メガ団地整備事業
簡易溶液栽培システムによるトマトのハウス栽培
3.5K×27K, 23K 104棟
 - ・排水改良された農地で、枝豆・キャベツの露地栽培の拡大
- ④清冽な湧水を地域資源として活用
 - ・湧水が育む農作物として商品化に取り組み、消費者アピールを図る。



①新たな農業法人が 228ヘクタールを経営

100回を超える検討会議を開催し、ほ場整備事業の導入を選択。

4法人を設立し、農地を利用集積することに決定！

各法人の構想を発表



集積計画を検討



集落打合せの結果報告

②大規模大豆団地の ブロックローテーション

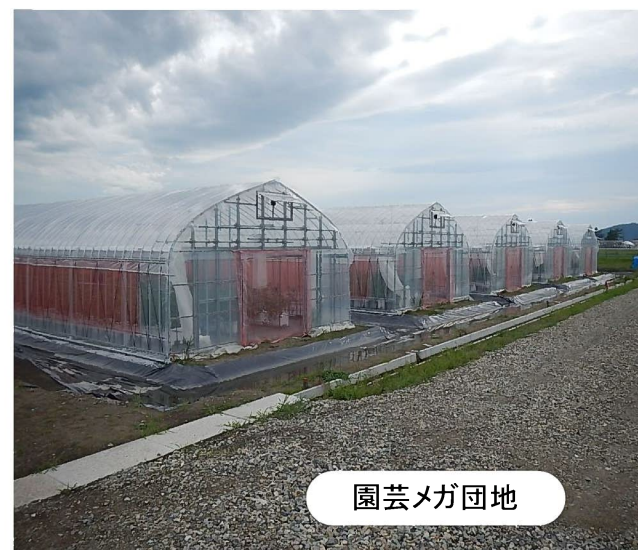
4法人+隣接地区大豆生産法人の連携により、機械の共同利用や出荷の一元化等でスケールメリットを発揮！



スケールメリットを活かした農作業

③おらほの愉芽の野菜づくり

園芸メガ団地 6ha
ハウス104棟



園芸メガ団地



トマト簡易溶液栽培

④清冽な湧水を地域資源として活用



金鎧清水



湧水が育む生態系



道の駅なかせん直売

